

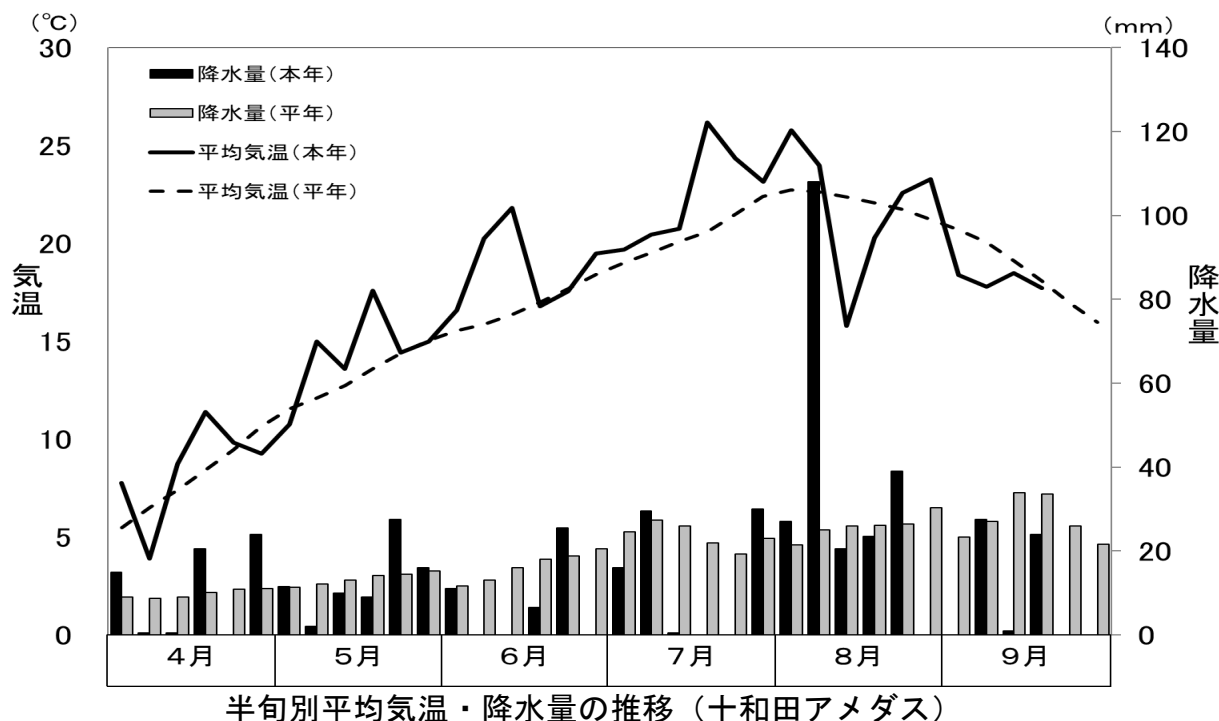
上北農業生産情報 第6号

令和3年9月27日
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

水稻の適期刈取と作業の安全に努めましょう！

- 刈遅れにならないよう、計画的に刈取を進めましょう！
- 胴割米の発生防止に向け、適正な温度での乾燥調製に努めましょう！
- コンバイン等による農作業事故がないよう、無理のない作業を行いましょう！

気 象



【8月】

- ・平均気温は、上旬・下旬は平年を上回り、中旬は平年を大幅に下回った。
- ・日照時間は、上旬は平年を上回り、中旬・下旬は平年を下回った。
- ・降水量は、上旬は8月9～10日にかけての大雨により平年を大幅に上回り、中旬・下旬は平年を下回った。

【8月の気象（十和田アメダス）】

項 目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上 旬	24.9	22.7	29.7	27.3	21.6	19.0	65.0	51.1	135.0	46.5
中 旬	18.1	22.2	20.6	26.7	16.0	18.6	14.1	46.3	44.0	52.1
下 旬	23.0	21.5	27.3	26.1	19.5	17.5	41.3	51.7	39.0	56.8

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均・合計)

【9月上旬・中旬】

- ・平均気温は、上旬・下旬とも平年を下回った。
- ・日照時間は、上旬・中旬とも平年を上回った。
- ・降水量は、上旬・中旬とも平年を下回った。

【9月上旬・中旬の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	18.1	20.4	23.3	25.2	13.5	16.3	56.7	44.1	27.5	50.5
中旬	18.1	18.6	23.3	23.7	13.3	14.0	61.1	46.4	25.0	67.5

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報(9月25日から10月24日までの天候見通し)

令和3年9月23日 仙台管区气象台 発表

- 天気は数日の周期で変わりますが、暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高く、期間の前半かなり高くなる可能性があります。
- 向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並みでしょう。

水 稲

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「まっしぐら」(管内13点の平均)の9月1日現在の生育は、稈長・穂長・穂数とも平年を上回っている。
- 2 籾数(暫定値)は、1穂籾数は平年並み、 m^2 当たり籾数は平年を上回っている。
- 3 9月1日現在の登熟歩合は、平年を大幅に上回っている。

【生育観測ほの生育状況(品種:まっしぐら)】

年次	出穂期 (月/日)	9月1日現在				1穂 籾数 (粒本)	m^2 籾数 ($\times 100$ 粒)
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	m^2 穂数 (本/ m^2)	登熟歩合 (%)		
本年	7/28	78.0	18.5	396	74.4	81.8	321
平年	8/6	75.0	17.7	379	44.2	81.9	309

注) 管内生育観測ほ13地点の平均値、平年値は各地点の平年値(前5か年～前16か年の平均値)の平均値

登熟歩合は比重1.06の塩水に沈んだ籾の割合、籾数は暫定値

《今後1か月間の主な作業》

1 適期刈取

- ア 十和田アメダスの平均気温のデータを基に試算すると、「まっしぐら」の刈取適期の終わり(出穂期の翌日からの積算気温 $1,200^{\circ}C$ の到達日)は、例えば、出穂期が7月30日のほ場では9月28日頃になると予想される。
- イ 個々のほ場の刈取適期は、出穂の早晚や籾数の多少によって異なるので、籾の黄化程度(ほ場全体の籾の約90%が黄化した時期)や籾水分(25～26%程度まで減少した時期)等から総合的に判断する。
- ウ 本年は出穂後の8月上旬まで高温で経過し、刈遅れによる茶米や胴割米の多発が懸念されることから、適期内に刈り終えるようにする。

【「まっしぐら」の刈取適期の目安（十和田アメダス）】

適期の目安	出穂期	7月28日	7月30日	8月1日	8月3日
適期始(積算気温960℃到達日)		9月12日	9月14日	9月17日	9月20日
適期終(積算気温1,200℃到達日)		9月25日	9月28日	10月1日	10月4日

※ 積算気温は出穂期翌日からの毎日の平均気温を積算した数値、9月23日までは本年の平均気温、9月24日以降は平年の平均気温で積算

2 その他留意する点

- ア 倒伏により品質の低下が予想される場合は、倒伏部分を別刈りする。
- イ 登熟ムラによる高水分粃や未熟な粃の混入が多い場合は、粃水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5～6時間貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- ウ 「良食味・高品質米」生産のため、乾燥は適正水分15.0%を目標とする。
- エ コンバイン等の機械の点検時には必ずエンジンを停止する。ほ場の出入りや傾斜地の走行は慎重に行うなど、農作業事故が起きないように十分注意する。

大豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、草丈は平年を上回り、稔実莢数は平年を下回っている。
- 2 食葉性害虫の加害が散見されるほか、一部のほ場で倒伏が発生している。

【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	9月10日現在		備考
		草丈 (cm)	着莢数(莢/本)	
十和田市切田	本年	107.4	34.8	6/4は種(平年：6/6)
	平年	98.3	39.6	
	前年	108.9	47.9	

注) 平年値は平成13年～令和2年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風や大雨に備え、滞水しないよう明きょ等の補修を行う。
- 2 青立ち株や大型雑草は汚粒発生の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
- 3 収穫適期は、コンバイン収穫では子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時期である。収穫適期に達したら速やかに作業できるよう、早めにコンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- 4 湿害等により生育差がみられる場合は別刈りするなど、ほ場の状態を見極めて収穫する。また、培土高のムラが大きいほ場や倒伏が見られるほ場では、土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

小麦

《今後1か月の主な作業》

- 1 耕起・砕土は出芽、苗立ちの確保に関わる作業のため、丁寧に行う。
- 2 湿害を防止するため、明きよの設置など排水対策を徹底する。
- 3 種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を徹底する。
- 4 は種作業は遅くとも9月末までに終え、越冬前の生育量を確保する。
- 5 は種量は10a 当たり条播で6～8kg、散播で12～13kgとする。

ながいも

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、いも長が平年を下回るものの、いも径は平年並み、いも重は平年を上回っている。
- 2 一般ほ場も、新しいもの肥大は概ね順調である。
- 3 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガの発生が見られる。

【生育観測ほの生育状況(種いも：1年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	萌芽期 (月/日)	つるのネット 頂到達日 (月/日)	9月10日現在		
					いも長 (cm)	いも径 (cm)	いも重 (g)
東北町野田頭	本年	5/14	6/7	7/10	62.7	5.3	869
	平年	5/14	6/8	7/12	64.3	5.2	762
	前年	5/14	6/7	7/10	59.1	5.4	780

注) 平年値は平成20年～令和2年の平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 台風等に備えるため、ネットや支柱の補強や明きよ等の排水対策を行う。また、台風等による大雨で穴落ちが発生したほ場は、速やかに埋め戻す。
- 2 葉渋病、ナガイモコガを主体とした防除を行う。
- 3 採種ほ場は、秋期もウィルスに感染するので、アブラムシ類の防除を徹底し、発病株は早めに抜き取る。

にんにく

《今後1か月の主な作業》

- 1 ほ場の準備と施肥
 - ア 黒腐菌核病、イモグサレセンチュウ等の土壌病害虫が発生していない排水性の良いほ場を選ぶ。なお、排水の悪いほ場に植え付けざるを得ない場合は、明きよや深耕など事前の排水対策を徹底する。
 - イ 土壌改良資材や堆肥は、土壌診断結果に基づいて施用量を決める。
 - ウ 基肥は、窒素成分で10a 当たり25kgを目安とする。

2 種子の準備

- ア 種子用の球は、病虫害の被害や腐敗がなく、形が整った一球5～6片のものから選ぶ。
- イ りん片重は10～15gを基準とし、大きさ別に3段階程度に選別し、できるだけ大きさを揃えて植え付ける。
- ウ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・種子りん片の選別後は速やかに消毒・風乾して植え付ける。
- エ イモグサレセンチュウの被害拡大防止のため、種苗として正規の管理・チェックを經ていない種子は絶対に使用しない。

3 植え付け

- ア 9月下旬～10月上旬に行う。
- イ 植え付ける深さは7～8cm程度とする。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 肥大が順調に進んでおり、収量は平年並みの見込みである。
- 2 葉枯病が発生しているほか、ハモグリバエ類の被害が散見される。

《今後1か月の主な作業》

- 1 降雨に備えるため、明きょ等の排水対策を講じる。
- 2 斑点性病害、さび病、ネギアザミウマ等を主体とした防除を行う。

秋だいこん(10月収穫)

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、は種後の降雨、低温の影響で地上部、地下部とも平年を下回っている。
- 2 一般ほ場の生育は、7月下旬までには種したものは順調であるが、8月上旬には種したものは生育がやや不良である。
- 3 病虫害の発生は特に見られない。

【生育観測ほの生育状況(品種：夏の翼)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町野田頭	本年	8/7	20.2	11.2	13.1
	平年	8/7	30.9	14.2	71.9
	前年	8/5	37.8	20.5	139.0

注) 平年値は平成13年～令和2年の平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 白さび病(わかか症)、アブラムシ類、コナガ等を主体とした防除を行う。
- 2 収穫は、L規格(1～1.2kg)を中心に、肥大状況を確認し適期に行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの9月10日現在の生育は、草丈、葉数とも平年を下回っている。
病害虫は、8月半ばから被害が多かった黒斑細菌病はやや収まり、うどんこ病がわずかに見られる。発生が多かったアブラムシ類は少なくなり、コガネムシ類によるものとみられる食害は散見される程度である。
- 2 一般ほ場の収穫作業は8月17日と例年どおりに始まった。病害虫は、生育観測ほと同様、黒斑細菌病が多かったが、やや収まっている。

【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	9月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/ 1	70.5	3.1
	平年	4/30	103.7	3.4
	前年	4/24	110.7	3.2

注) 平年値は平成23年～令和2年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 黒斑細菌病を主体とした防除を行う。
- 2 試し掘りで根部の肥大状況を確認し、適期に収穫する。

りんご

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の9月11日現在における果実肥大(横径)は前年を下回っている。
- 2 黒石市(りんご研究所)における果実肥大(横径)は8.2cmで、平年比103%、前年比100%となっている。

【生育観測ほの生育状況(品種：ふじ)】

調査地	9月11日現在の果実肥大(横径)		
	本年(cm)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	7.4	8.2	90

《今後1か月間の主な作業》

- 1 中生種の収穫
 - ア 自園の果実の状況を確認し、早もぎせず、味をのせて適期に収穫する。
 - イ トキは熟期が揃わないので、3回程度に分けてすぐりもぎを行う。早生ふじは、地色を見て2回くらいに分けて収穫する。
※ トキの収穫始めは黒石(りんご研究所)で9月30日頃からと見込まれる。また、早生ふじの収穫始めも平年並みの10月1日頃からと見込まれる。
- 2 風害防止対策
台風に加え、防風網の点検・補修や、幼木、わい性台樹の支柱の補強など風害防止対策をしっかりと行う。

牧 草

《生育状況》

- 1 一部地域でヨトウムシによる牧草の食害が確認されているが、概ね順調に生育している。
- 2 生育観測ほでは、平年より9日早い9月14日に3番草を収穫し、10a当たり乾物収量は平年を上回った。

【生育観測ほの生育状況（オーチャードグラス主体）】

調査地	年次	刈取日 (月/日)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)
十和田市大不動	本年	9/14	73.7	216
	平年	9/23	75.0	181
	前年	9/16	65.9	115

注) 平年値は平成23年～令和2年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 3番草の刈取
オーチャードグラス3番草の刈取りは、なるべく10月上旬に終わらせるようにする。
- 2 雑草防除
ギシギシ等の雑草の発生が多いほ場では、除草剤を散布する。
- 3 土壌改良資材等の散布
3番草の刈取後に、土壌改良資材や堆肥の散布を行う。

飼料用とうもろこし

《生育状況》

生育観測ほ（品種：パイオニア115）では、9月15日現在、糊熟期に到達している。

【生育観測ほの生育状況（品種：パイオニア115）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	雄穂 抽出期	絹糸 抽出期
東北町北栄	本年	5/14	8月1日	8月4日
	平年	5/22	8月6日	8月8日
	前年	5/18	8月9日	8月12日

注) 平年値は、は種しなおした平成24年を除いた平成22年～令和2年の10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 ほ場ごとの刈取適期（黄熟期）を確認しながら、計画的に刈取りを進める。
- 2 台風等による倒伏・折損が発生した場合は、速やかに刈り取る。